

生活者ヒアリングの結果について（概要）

1. ヒアリングの目的

ロードマップが生活者に伝わっているのか、また、ロードマップが生活者に求めている行動と、生活者が既に行っている温暖化対策のための行動とのギャップは何かの2点を明らかにするために、生活者ヒアリングを実施した。

2. ヒアリングの概要

- ・ 日時・場所：2010年6月中旬，原宿
- ・ 参加者：ヒアリング対象者10名（5名×2グループ）
- ・ 進行役：枝廣淳子
- ・ サンプルング方法：スノーボールサンプリング※¹
（※1：ある回答者から、知り合いを紹介してもらい、雪だるま式にサンプル数を増やしていく方法。）
- ・ グルーピング：A) 地球温暖化／気候変動問題について積極的に関与していない層
B) 地球温暖化／気候変動問題について積極的に関与している層※²
（※2：関与している層とは、温暖化関連の職業、環境NGOに携わっている人等で構成されている。）
- ・ 対象者：20代～50代の既婚女性。勤務形態、居住形態には偏りがないようにした。

3. 質問項目

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 温暖化問題についてどのように思っているか。(2) 温暖化についての情報をどこから入手しているか。(3-1) 中期目標、温暖化対策基本法、ロードマップは知っているか。(3-2) 日本全体のCO2排出量のうち、家庭部門の占める割合を知っているか。(4) 家庭のエネルギー消費内訳を知っているか。(5) 家庭からのCO2排出量を削減するためにしていること、今後できそうな対策アイデアはあるか。(6) 費用についてどのように考えているか。(7) 地球温暖化対策に有効な行動に変化したきっかけは何か。 |
|--|

4. ヒアリング結果

(1) 温暖化問題についてどのように思っているか。

A、Bともに肌感覚で、温暖化していることを実感している。

A：「年々、暑くなっていると思う。外に出る仕事をしているが、毎年、『今年暑いよね』という会話をしている。冬も寒くなっていないと肌で感じた。」

「何かしないといけないと焦っているが、何もしていない。」

B：「肌感覚としては前とは違い、暖かくなっていると思う。山の中腹に住んでいるが、昔から住んでいる人に、昔は寒く、雪が積もって上がって来られなかったと聞いた。今は雪も積もらない。確実に違うと思う。」

(2) 温暖化についての情報をどこから入手しているか。

Aはテレビや新聞のマスメディアや子どもの学校のパンフレットから情報を入手している。Bは、「本当のことを知りたいときはインターネット」など、テレビには不信感を抱いている。

A：「新聞。購読している新聞では頻繁にシリーズを組んでいる。」

「7割がテレビで後は学校広報。学校の取組や、区の活動が入ってくる。子ども経由で来るとやる姿勢は見せる。」

「友達（と）の話では出ない。」

B：「温暖化に関するインターネット新聞、環境、エコロジーに関するウェブサイトをチェック。」

「基本はネット。新聞はネットで見た後に報道のされ方を確認するぐらい。信用はしていない。ネットは、環境全般を取り扱っているサイトよりも、ピンポイントな情報に特化しているサイトを見ている。」

「仕事仲間やツイッターから情報が入ってくる。取材の情報や、主婦仲間、ママ友は子どもの話ししかしない。」

(3-1) 中期目標、温暖化対策基本法、ロードマップは知っているか。

A、Bともにロードマップはほとんど認知されていなかった。中期目標、地球温暖化対策基本法案についても知られていなかった。

A：「(中期目標は、) 2010年10%、2020年50%。それがどれぐらいかは知らない。家庭がどのぐらいかは知らない。テレビではそれが無謀といていたので、尋

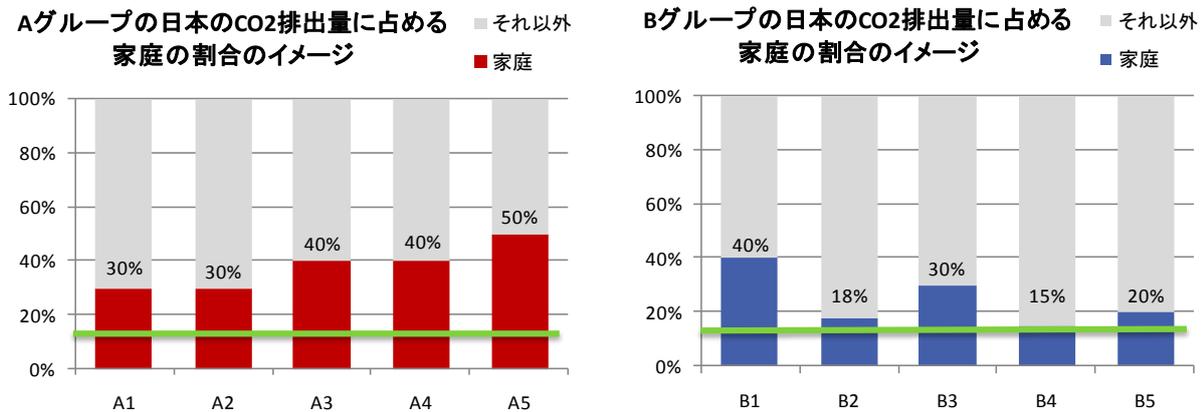
常じゃない値だとは思っている。家庭での電気を消すなどの取組では到底到達しない割合だと思う。」

「(ロードマップは) 初耳。」

B: 「(ロードマップは) 知らない。」 (5名中3名)

(3-2) 日本全体のCO2排出量のうち、家庭部門の占める割合を知っているか。

A、Bともに家庭部門の割合を大きく考えていたが、Aでは特に過大に認識していた。



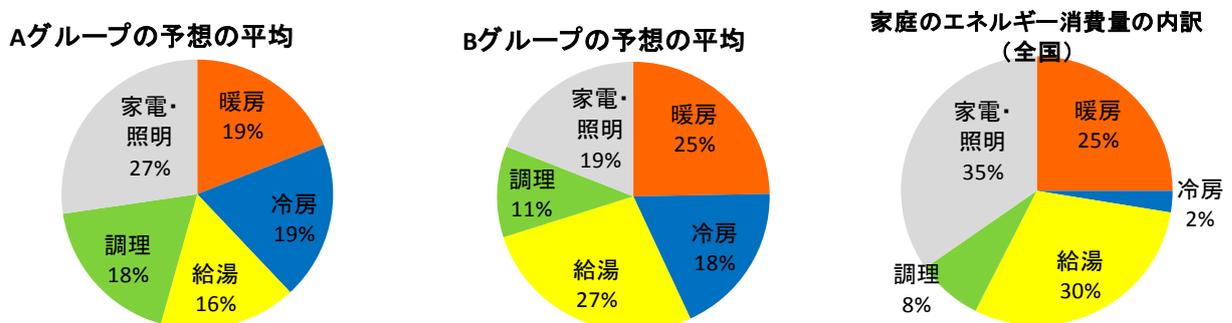
緑線は、2007年度の日本のCO2排出量のうち、家庭部門で占めている割合である約14%を示している。
(温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2008年度)確定値」に基づく。)

A: 「(家庭の分が) 少なくて安心した。」

B: 「(家庭の割合の数字はどこかで見たことが) ある。」 (3名)

(4) 家庭のエネルギー消費内訳を知っているか。

A、Bともに冷房の割合を過大に認識している。



A: 「冷房が違った。」

B: 「冷房が意外に小さい。」

(5) 家庭からの CO2 排出量を削減するためにしていること、今後できそうな対策アイデアはあるか。

A、B ともに電気を消すなどの心がけ行動が聞かれた。また、A では、安価で自ら気軽にできる工夫したアイデアが聞かれ、B では「使わない」「持たない」という消費スタイルの変化も挙げられた。

表 1：既に行っている温暖化対策（A グループ）

給湯	お風呂ではなく、シャワーを使う 節水シャワーヘッドに切り替える
交通	エコカー 車を持たない 電車の利用
住居	遮光カーテンを利用する プチプチ（気泡入り緩衝材）を窓に貼る
照明・家電	電気やクーラーを消す LED を利用する 0 A タップを利用する コンセントを抜く 主電源から切る 省エネ型テレビに買い換える テレビを見る時間を制限する 電球型蛍光灯の利用
生活	エコ箸の利用 カーボンオフセット葉書の購入 靴下を履く ごみを分別して出す ティーバッグではなく、急須でお茶を入れる 缶のフタ集め 服をリサイクルに出す
調理	ガスストーブの上で調理する 食器洗い洗浄機を利用している 炊飯器の保温スイッチを切る 食材をいっぺんに切り置きし、いっぺんに火に掛ける
暖房	ホットカーペットの下にアルミシートを敷く 野外ではアルミシートの上に座る
冷房	エアコンではなく、扇風機にする ゴーヤを植え、緑のカーテンにする 一人のときは冷房をつけずに公共スペースに外出する 冷却枕、氷枕の利用 冷感ジェルパッドをシーツの下に敷く

表2：既に行っている温暖化対策（Bグループ）

給湯	エコキュート 給湯器のスイッチを切る シャワーの利用
交通	エコカー カーシェアリング、レンタカー 自動車をできるだけ使わず、歩く
住居	国産材で家を建てる オール電化 カーテンを厚くする 窓にダンボールを貼る 住宅の水周りを集中させる 木製サッシ、木材の床、漆喰の壁にする
照明・家電	0Aタップを利用する 間接照明を利用する 充電式掃除機を利用する 省エネ型テレビ、省エネ型冷蔵庫に買い換える 電球型蛍光灯の利用 便座の電源を夏は切る アンペアを下げる
生活	洗剤を利用しない マイバック、マイ箸、マイボトル ペットボトルを買わない ミネラルウォーターではなく、水道水を利用する レジ袋を断る 掃除もできればホウキを使う 子供のオムツを布オムツにする、布ナプキンにする 洋服はオーガニックコットンにする
調理	炒め物は早めに火を止め、余熱を利用する お湯を沸かす時に蓋をする、鍋の周りの水を拭く ご飯を可能な限り室温で保存し、冷えたまま食べる 熱伝導の良い鍋を利用する 水を使わずに調理できる鍋を利用する 炊飯器を使わず、土鍋でご飯を炊く 電子レンジの使用をやめる
暖房	コタツを利用する 薪ストーブ・ペレットストーブを利用する 重ね着
冷房	エアコンは使わない エアコンは使わず、扇風機を利用する エアコンをドライモードで利用する ゴーヤを植え、緑のカーテンにする 食べ物で体温を調整する

表 3 : 温暖化対策のアイデア（未実施）（Aグループ）

住宅	家の風通しを良くする カーテンを閉める
暖房	家族分散しないで集まって過ごす
給湯	お風呂のお湯をアルミシートで保温する
調理	圧力鍋を利用する 保温鍋を利用する 鍋から炎が出ないようにする 鍋の側面の水を拭き、火にかける 乾麺を買わずに、茹で麺にする

表 4 : 温暖化対策のアイデア（未実施）（Bグループ）

交通	電気自動車
住宅	小さいPVを購入する予定 燃料電池の導入 家庭用スマートグリッド HEMS 雨水タンク 二重窓 風力発電
照明・家電	LED
生活	暖色のインテリアにする 家族で集まって過ごす

(6) 費用についてどのように考えているか。

許容できる回収期間は5～10年が多かったが、許容できる初期投資額にはかなり幅がある。買い替えについては買い替え自体に対するためらいや面倒くささという心理的な障壁もかなりある。

(Aでのやりとりの例)

- (エコ家電に買い替えることで) 電気代のために安くしようという話にはならないか。
→ 「エアコンは10年も使っているので、買い替えようと思うが、1,000円、2,000円で買えるものでもないで、手が伸びない。検討していると夏が終わってしまう。」
- 省エネ型がいいと言われてもポンと買えるものではないだろう。どうなっていれば、買い替えようと思うか。
→ 「冷蔵庫も洗濯機も結婚当時のままで10年以上使っている。使い続けるのがエコなのか、買い替えた方がエコなのか。ガタがきたらエコを検討して買うと思うが、今、敢えて買うつもりはない。」
- 省エネ型の方が電気代で見ると、家計が助かるという切り口ではどうか。
→ 「壊れてからでは遅いが、冷蔵庫は1日なくてもダメ。いま不便していないのなら、買い替えの面倒さを先に考えてしまう。」
- お店で説明を聞く面倒さか。
→ 「それもある。」

(Bでのやりとりの例)

- 二重窓や燃料電池もよいが、大きな障壁はコストだと思う。買える、買えないというラインはどこか。CO2が本当に減って、長期的に元が取れる場合に、初期投資と投資回収年数はどのくらいのスパン、組み合わせならよいか。
→ 「PVは固定価格買取制度で、大体計算だと7年くらいで回収できる、という話。それが一戸建てで20年住むんだったら、7年くらいで回収できるんだたらいいと思う。10年以下、というのが一つの目安かなあ。」
「(投資回収年数は)10年以下、5年がいい。金額は分からない。」
「省エネ型(冷蔵庫を選んだ際の初期投資)は15万円、(投資回収年数は)10年だったら納得がいく。」
「狭くならないなどの条件で、5年くらいで50万円は高い。30万円くらいがいい。」

○ 回収年数が短くても、初期投資はどれぐらいまで払えるか。

→ 「初期投資のときにいくら出せるのかは生活レベル次第。恐らく、日本全体でできるものではない。滋賀県では家庭版 ESCO をやっている。銀行が環境配慮型のものに投資して、光熱費でペイできるものであればいい。100 万円でも、200 万円でもそれならいい。自治体でもやってほしい。」

「収入がない主婦として、PV が欲しいと夫にいけない。冷蔵庫の金額ぐらいなら言えるし、納得がいく。30 万円以上はありえない。」

「薪ストーブなら 100 万円ぐらいの投資をしたっていい。暖かいとか持続可能だという実績が確認できて、信頼できるものだったのでできた。使っている家にも事前に見学に行った。風力発電も実績があり信用度があれば、投資回収はして欲しいが、初期投資が 100 万円までならいい。プラスアルファで持続可能なエネルギーを利用する満足感への投資という感覚。」

(7) 地球温暖化対策に有効な行動に変化したきっかけは何か。

B では、子どもや健康というキーワードがきっかけで、結果的に温暖化対策に有効な行動を取っている人がいた。

A : 関連する情報なし

B : 「引越しをするなどのときはいろいろ替えられるチャンスだが、引越し以外のきっかけはあるか。」

「子ども。どうやったらみんな無農薬を食べてくれるのかと思うと、子どもができてエココンシャスになる人が多い。」

「健康。アレルギー、アトピーがひどかった。この部屋も化学物質が怖い。」

「薪ストーブのあるうちは楽しそう。行ってみたい。両親、祖父母が入院したときに、この施設ではずっと過ごすのは居心地悪いと思った。祖父母の老人ホームの隣の小学校が木造小学校になり、気持ち良さそうだった。」